

<「知るっば!久留米」 令和2年12月17日(木) 12:30~放送分>

有馬火消し ～第2回～ 「有馬火消しの始まり」

<ゲスト：久留米市役所市民文化部文化財保護課 水原 道範主査>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば!久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

12月3週目の今週は、『有馬火消しの始まり』をテーマにお送りします。

ゲストは、この方です。

ゲスト:水原道範さん(以下「水原」)

久留米市役所文化財保護課の水原道範です!

よろしくお願いします。

坂本 今月のテーマは『有馬火消し』ですが、今週は『有馬火消しの始まり』についてお送りします。前回の放送では、江戸時代の住宅事情や火災事情について、同じ文化財保護課の小澤さんにお話を伺いました。

そんな社会情勢の中で、久留米藩有馬火消しが組織されていった経緯について教えてください。

水原 今回は、江戸藩邸の話が中心となります。

当時の江戸は、町人50万人、武士50万人の合わせて100万人が住んでおり、世界最高の人口密度と言われていた都市でした。

江戸では冬の時期、「からっ風」といわれる強い風が吹き、乾燥した日が続きました。

そんな時期に一旦火事が発生してしまうと、あっという間に燃え広がっていました。

明暦3(1657)年、「明暦の大火」という大きな火事がありました。

この火事は、江戸城をはじめ、江戸のまちのほとんどが燃えてしまうという火事なのですが、死傷者が3万人から10万人と記録されています。

死者数は記録によって違うのですが、仮に10万人だとすると、後の関東大震災や東京大空襲で亡くなった方の数とほぼ同じという大災害となっています。

坂本 当時の人口が約100万人で、そのうちの10万人だからものすごい数ですね。

近代になるともっと人口は増えますが、比率を見ると非常に厳しい災害だったということになりますよね。

水原 それから、江戸の大改造に着手するんですね。

武家屋敷を移動させたり、道路の幅を広げて広小路という大きな道を設けたり、

空閑地(くうかんち)を設けたりしております。

例えば、東京の上野に広小路という地名がありますが、それがその時にできたものですね。

坂本 あー、聞いたことがあります。今でも地名として残っていますね。

水原 これが、その時にできた地名なんですよ。

坂本 なかなか情緒ある感じの地名だと思っていました。江戸時代にできたものなんですね。

水原 また、幕府は旗本に命じて火消しの組を4組作っておりまして、これが江戸の火消しの始まりといわれた組織なんですよ。

坂本 先週、ゲストの小澤さんがおっしゃっていたんですけど、久留米でも道幅を広げたり、武家屋敷を移転させたりして、事前の備えをしていたそうですね。

そのうえで、火事の時には火消しが出てくるということでした。

江戸は当時としても大都市で、世界的な人口密度を誇る都市だったんですね。

そんな大都市だから、火事の規模も相当なものだったんでしょうね。

水原 江戸では、火事の発生を防ぐために、色々な禁止令が出ております。

「風が強いときには外出するな」、「ごみ焼きはするな」、「風呂屋は午後6時以降に窯をたくな」など、要するに暗くなってからは火を扱うなということですね。

あとは、消火のために「ひとつの町の両側に最低8本の井戸を作りなさい」などです。

しかしながら、江戸では失火だけでなく、放火も多かったみたいです。

それを取り締まるために任命された人たちが、「火付盗賊改方(ひつけとうぞくあらためかた)」と言われ、鬼の平蔵こと長谷川平蔵などが有名ですね。

坂本 最近、時代劇があまりないから懐かしいですね。

やっぱり、火付盗賊改方や長谷川平蔵もちゃんと実在したんですね。

創作話かと思っていましたが、史実に基づいた話だったんですね。

水原 ちなみに、長谷川平蔵は、8年間も火付盗賊改方の長官を務められたとても有能な方でした。

この方がまちの治安維持のほかに、火事が起こらないように働いていたんです。

それともうひとつ、「風烈廻り(ふうれつまわり)」という仕事もしていて、風が強い日には、火災が発生しないように見まわりもしていました。

坂本 町内や街中を巡回していた、今でいうパトロールをされていたということですね。

色々な決まりや禁止事項があって、江戸の庶民も大変だったでしょうね。

その中で有馬火消しが組織されるということですね。

水原 1668年に江戸で火事が起こりまして、増上寺というお寺が燃えてしまいました。
増上寺は幕府にとって大事なお寺でしたので、最寄りの久留米藩に火の番をしなさいという命令がくるわけです。
そこで、藩が火消し隊を組織することになります。
これが、「有馬火消し」の始まりとなります。

坂本 なぜ幕府は、増上寺をそこまで守ったのですか？

水原 増上寺には2代将軍を始め、6名の将軍たちとその一族のお墓があったんです。
こちらに写真があるんですが…。

坂本 ラジオなので私たちしか見ることができないのですが…立派な門ですね。

水原 残念ながら東京大空襲で焼けてしまったのですが、それ以前は日光東照宮に並ぶきらびやかな国宝級の建物があったんです。

坂本 装飾のインパクトがかなり強いですね。

水原 そうですね。そんな増上寺にもし何かあったら、久留米藩がすぐに駆け付けるように指示されていたわけです。
またラジオで申し訳ないのですが、こちらに「有馬火消し隊行列図」を持ってきました。
これは、お殿様を中心として増上寺に駆け付けるシーンを描いた絵図なんです。

坂本 勇ましいですね。キレイに描かれていますね。
色々な役回りの方がいて、それぞれが自分の役目を果たしていたんですね。

水原 真っ赤な衣装を着た殿様を中心に、火事装束という防災服をまとった人たちが駆けつけている様子です。
これが粋(いき)でいなせなことから、有馬火消し隊と呼ばれるようになりました。
江戸っ子たちにも大人気だったようです。

坂本 なかなか粋な集団なわけですね？

水原 そうなんです。殿様のほかに馬に乗った方が8名、殿様の周りを固める侍が50名、そのほかに民衆が150名、合わせて200名ほどですね。

坂本 有馬火消し隊は、かなりの大所帯ですね。

水原 おそらくこの絵の一人一人にモデルがいて、それが忠実に描かれていると思われます。

これが、江戸時代終盤の有馬火消しの姿ということでしょうね。
また、久留米藩邸の中には、火の見櫓（やぐら）も設けておりました。
敷地内に高台になったところがあるのですが、その上に高さ9メートルといわれる火の見櫓を作っておりました。
これが江戸のシンボルとして、藩邸内の水天宮と並ぶ非常に有名な建物でした。

坂本 久留米藩が、江戸で有名になっていたんですね。

水原 例えば安藤広重の浮世絵ですね。
久留米藩の火の見櫓が描かれた絵が、5枚もあるんですよ。

坂本 なかなか面白いお話が続きますが、そろそろ今日はお時間になるようです。
興味深い話をありがとうございました。
来週も引き続き、「有馬火消し」の久留米城下での活躍をお聞きしたいと思います。
お楽しみに！